

乳児期ステロイド後に長期経過をたどった小児アトピーの経過 (16 歳男児)

症例 ID：001-16-HK | 記録日：2013 年 3 月 31 日

1. 診断・治療前経過

乳児期、顔にできた発疹で皮膚科に通い、ワセリンとステロイドを混ぜた軟膏を処方されていました。半年ほど通った頃、水ぼうそうをきっかけに小児科で使用薬をすべてやめるよう指示され、軟膏も中止しました。

中止後 2～3 日頃からリバウンドと考えられる強い症状が始まり、顔や足が赤くただれ、汁が出て、目の周りからも汁が流れる状態になりました。その後、ステロイドを使わない皮膚科にも通いましたが、細菌感染予防の消毒と包帯管理が中心となりました。小学生頃には見た目にはわかりにくくなりましたが、小学 6 年生頃に首や足の皮膚が荒れ、汁が出るほど悪化しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期に、ワセリンとステロイドを混ぜた軟膏を使用していました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期に約半年。
中止時期	水ぼうそう罹患時に、小児科で薬をすべてやめるよう指示され中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期	来院前	顔の発疹で皮膚科に通い、ステロイドを含む軟膏を使用していました。
中止 2～3 日後	リバウンド期	顔や足が赤くただれ、汁が噴出し、目の周りからも汁が流れました。
小学生頃	来院前	見た目にはわかりにくい状態まで落ち着きました。
小学生時代	来院前	水泳後に細菌感染し、リンパ部の腫れと膿があり、入院・点滴・切開を経験しました。
小学 6 年頃	悪化時	首や足の皮膚が荒れ、首が回らないほどただれました。足にも大きな症状が出ました。
松本医院受診後	治療開始	漢方薬、入浴剤、軟膏による治療を開始しました。
治療経過中	リバウンド期	皮膚からリンパ液が何度もあふれ、かゆくて掻き壊し、夜も眠れない日々が続きました。
1 年数か月後	回復傾向	普通の生活ができる状態になりました。

4. ピーク時期

ピークは、乳児期にステロイド軟膏を中止した2～3日後から、顔や足が赤くただれ汁が出た時期と、小学6年頃に首が回らないほどただれた時期です。松本医院治療中も、リンパ液、掻き壊し、睡眠困難を伴う時期がありました。

5. 困りごと

- ・乳児期の強いリバウンドにより、家族に後悔と心理的負担がありました。
- ・細菌感染、入院、点滴、切開を経験しました。
- ・治療中はリンパ液、掻き壊し、睡眠困難が続きました。
- ・遠方からの通院と保険外の外用・入浴剤の費用負担がありました。

6. 経過のまとめ

乳児期にステロイドを含む軟膏を使用し、中止後に強いリバウンドを経験しました。その後も小学生時代の感染や小学6年頃の悪化を経て、松本医院で漢方薬、入浴剤、軟膏による治療を開始しました。

治療中はリンパ液、掻き壊し、睡眠困難を伴う時期がありましたが、1年数か月後には普通の生活ができる状態になりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。